

# 取扱説明書<sup>②</sup>

## 移動式融雪機 融雪王『太郎』 HR-1400-275G



ご使用前に本書を良く読み、正しくお使い下さい。  
本書はお読みになった後も大切に保管して下さい。

## 安全上のご注意(必ずお守り下さい)

■本書に記載される注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、以下の通り分類しています。



### 危険

誤った取り扱いをすると、「人が死亡又は重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。



### 警告

誤った取り扱いをすると、「人が死亡又は重傷を負う可能性が想定される」内容です。



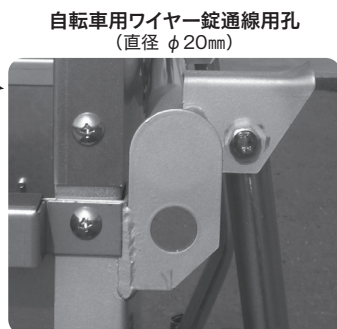
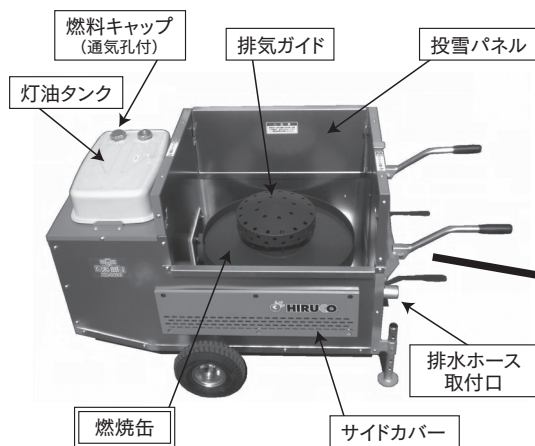
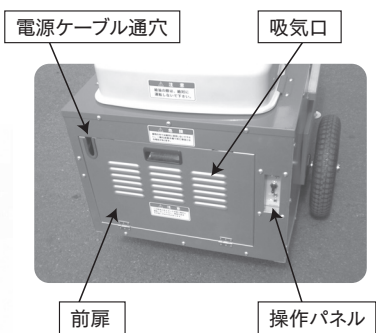
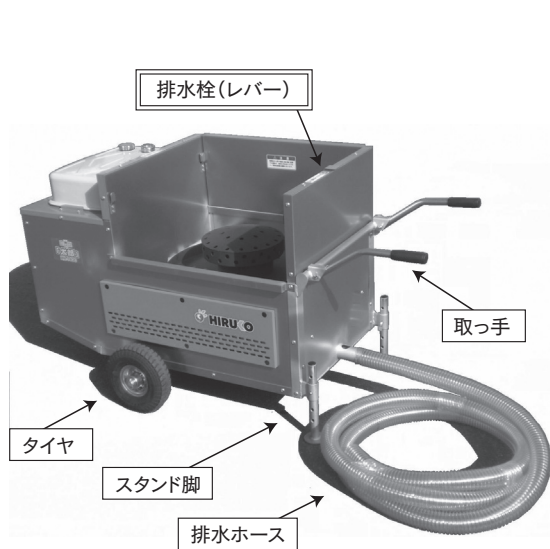
### 注意

誤った取り扱いをすると、「人が傷害を負う可能性または、物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

## 目次

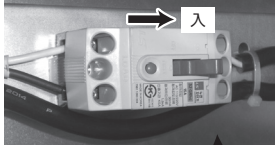
1. 各部名称	2
2. 安全上のご注意	4
3. ご使用の前に	9
4. トルネード融雪のしくみ	11
5. 操作・融雪方法	12
6. こんなときには	16
7. 点検方法・お手入れ方法	19
8. 灯油切れトラブル時の エア(空気)抜き方法	22
9. 製品仕様	24

## 各部名称

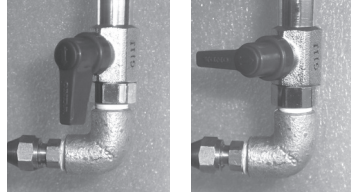


「バーナー室内部」

漏電ブレーカー



灯油コック



開 (OPEN)

閉 (CLOSE)

水抜コック

外部点検口

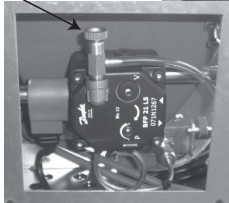
バーナー本体

空焚き防止装置  
(過熱センサー)

端子箱

エア抜き  
「つまみ」

ギャポン

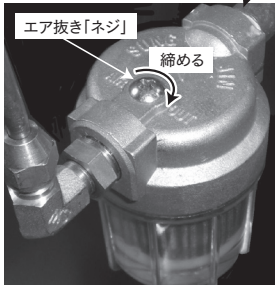


(外部点検口から見たところ)

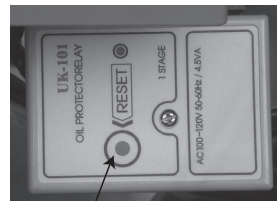


製造番号シール

オイルストレーナー



バーコンリレー



バーナーリセットボタン

## 安全上のご注意

### ⚠ 危険

燃料は必ず灯油をご使用下さい。  
ガソリン・アルコール等を使用すると  
爆発の恐れがあります。



### ⚠ 危険

運転中の給油は絶対におやめ下さい。  
引火・爆発の恐れがあります。  
給油は運転停止後、燃焼缶が冷えて  
からおこなって下さい。



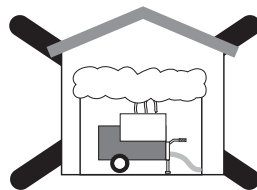
### ⚠ 危険

融雪機は建物からはなれた所でご使用  
願います。また、融雪機の周囲3m以内での  
可燃物の設置・使用をしないで下さい。  
引火・爆発の恐れがあります。



### ⚠ 危険

運転中の換気にご注意下さい。  
建物の中では絶対に使用しないで下さい。  
換気が不十分な場所で運転すると一酸化  
炭素中毒で死亡事故となる場合があります。





**警告**

高温にご注意下さい。  
 燃焼缶や排気部に接触すると火傷の恐れがあります。



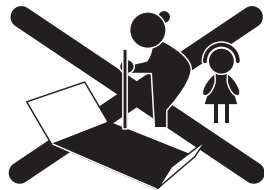
**警告**

融雪機上部へは乗らないで下さい。転倒や火傷、本体の故障の原因となります。



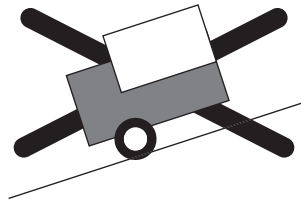
**警告**

作業中および使用後冷却するまでは必ず使用者が融雪機を管理して下さい。本体から離れたりすると、他者が接触したり思わぬ事故となります。



**警告**

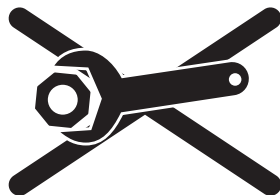
融雪機は必ず水平な場所でご使用下さい。傾斜面での使用は本体の滑走や燃焼異常等の恐れがあります。また、燃焼缶底が融雪水から露出し、燃焼缶の損傷の原因となります。



## 安全上のご注意

### ⚠ 注意

本製品の改造・修理はおやめ下さい。  
本体損傷・故障や事故の原因となります。



### ⚠ 注意

運転中の換気にご注意下さい。排気ガス  
が吸気され、不完全燃焼を起こす場合  
があります。



### ⚠ 注意

油漏れ・油のにじみ等が無いことを確認  
の上、運転して下さい。  
本体損傷・故障や事故の原因となります。



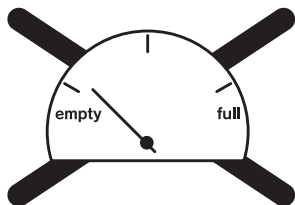
### ⚠ 注意

融雪目的以外には使用しないで下さい。  
本体の損傷等の原因となります。



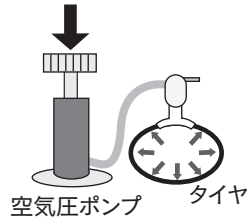
### ⚠ 注意

燃料が空の状態では運転しないで下さい。  
燃料パイプに空気が混入し、  
着火不能となる場合があります。



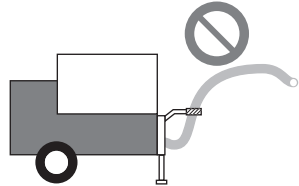
**!** 注意

タイヤに空気を入れるとき、最大空気圧以上入れないで下さい。タイヤの損傷、またはタイヤ破裂事故の原因となる場合があります。 最大空気圧：294kPa (3.0kgf/cm<sup>2</sup>)



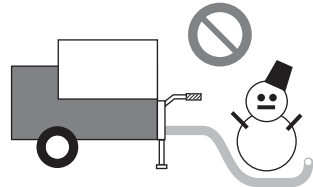
**!** 注意

排水ホースに水が流れない状態でのご使用はおやめ下さい。バーナーが浸水し、着火不能・故障となる場合があります。



**!** 注意

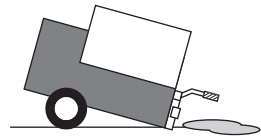
冬期間ご使用の後は必ず、ホース内の水を抜いて下さい。凍結によりホースが詰まり、排水不良からバーナーが浸水し、着火不能・故障となる場合があります。



**!** 注意

シーズン終了後や長期保管をする際のご使用後は本体に水が残らない状態にして保管して下さい。本体内の水が凍結し、本体損傷の原因となる場合があります。

使用後の水は全て抜く





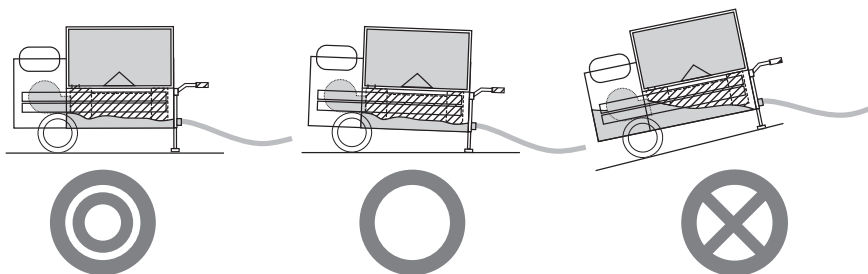
## 安全上のご注意

### ⚠ 注意

運転中、前扉部の吸気口や、排気ガイドの排気口を雪や異物で完全に塞がないようにして下さい。不完全燃焼の原因となります。

### ⚠ 注意

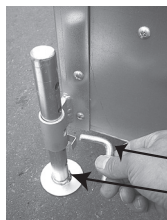
必ず、本体が水平になるように、スタンド高さを調整して設置して下さい。怠ると融雪水で冷却されている燃烧缶の底が露出して、燃烧缶の熱変形損傷の原因となります。又、バーナー室側に水が浸入しバーナー及び電気部分の損傷により、運転不能となる場合があります。



### ⚠ 注意

運転は、燃烧缶の上部や側面に雪のある状態で行って下さい。雪の無い状態での運転は絶対に行わないで下さい。燃烧缶が損傷して、使用できなくなることがあります。

1. 本体を水平に設置して下さい。



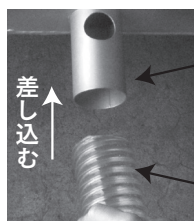
この際、取っ手で機体を持ち上げ、左右のスタンドの高さをスタンドピンを差し込んで調整して下さい。

スタンドピン

スタンド脚

(固定時)

2. 排水ホースを取付口に接続して下さい。排水ホースは状況に応じて専用の接続部品及び延長ホースをつないで長さを調整し、付属のバンドを締めて接続して下さい。

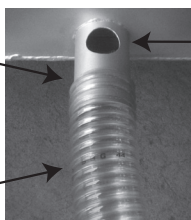


排水ホース

取付口



排水ホース

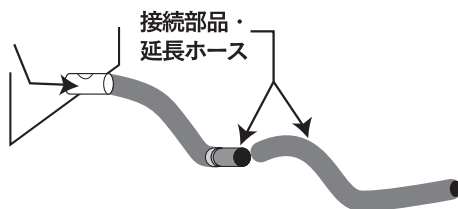


越流口

排水ホースが水詰りしたときの、越流口

〔取付口外径〕  
50mm

※排水延長ホース  
(別売品)の接続



3. 灯油タンクの燃料キャップを外し、給油して下さい。  
給油は火気厳禁でおこなって下さい。



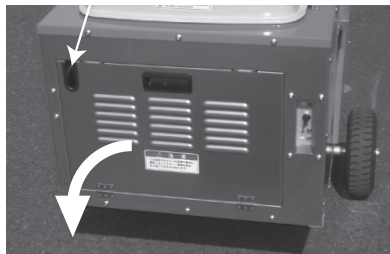
**危険**

給油は必ずバーナーの燃焼が止まった状態でおこなって下さい。引火・爆発の危険があります。

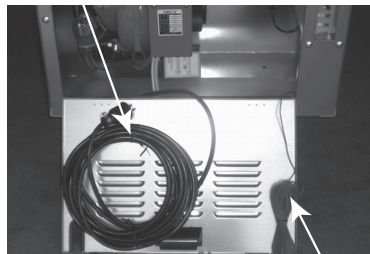
## ■ ■ ご使用の前に

### 4. 前扉を開け、付属のアース線と電源コードを引き出して下さい。

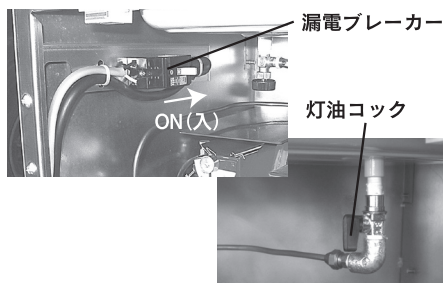
電源ケーブル通穴



電源ケーブル



アース線



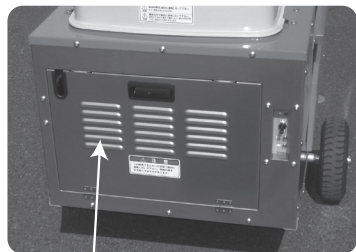
この際、灯油コックが開放位置(写真の状態)にあり、電源ブレーカーがON(入)であることを確認して下さい。

電源ケーブル通穴からアース線と電源ケーブルが出るように前扉を開めます。

### 5. 付属のアース線を用いて、本体のアースを取ります。

### 6. 電源ケーブルのプラグを屋外コンセントに接続して下さい。

### 7. 吸気口を雪などで塞がないようにして下さい。

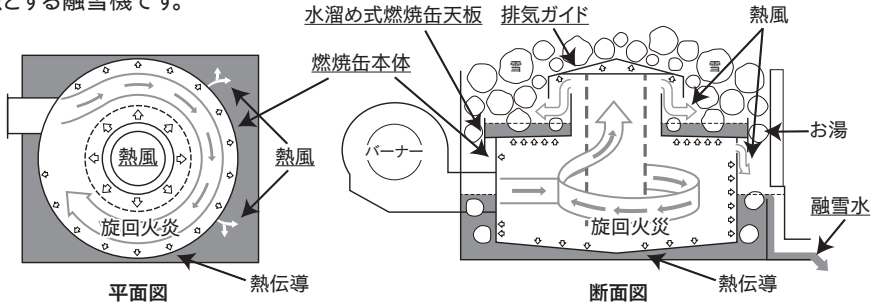


前扉部吸気口



運転中に吸気口を塞ぐと吸気不良による失火の原因となります。

本機「太郎」は、下図のように燃焼缶の中で炎が渦を巻くトルネードファイア(旋回火炎方式)を特徴とする融雪機です。



## 融雪のしくみ

### ①燃焼缶天板による融雪力

トルネードファイアは、燃焼缶本体・天板を加熱して、高温の排気ガスとなって排気ガイドにより融雪水が溜まっている燃焼缶天板へ放射状に吹きつけます。

この結果燃焼缶天板上の雪は、熱風と高温の融雪水により効率よく溶けます。

### ②融雪槽内の融雪水による融雪力

接触熱による融雪は、接触している雪の部分に熱が伝わり融けていく融雪ですが雪内部は空気層(断熱層)が沢山あるため、熱が伝わりにくく、融雪に時間がかかります。

これに対して、融雪水を融雪槽内に溜まる構造にした本融雪機は、燃焼缶本体からの熱を大量に吸収した融雪水が雪の内部まで浸透して融雪するので早く融雪できます。

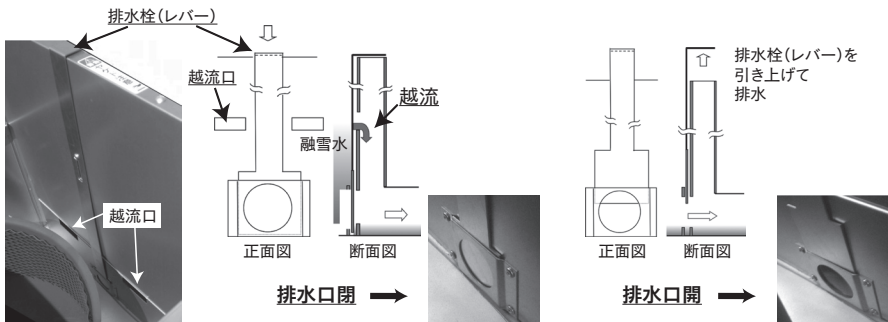
また、燃焼缶本体側面2ヶ所の排気口から排気ガスを雪に吹き付けて、雪を融かします。

### ③排気ガイドの接触熱による融雪

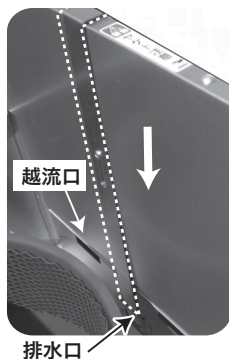
高温となる排気ガイドの接触熱で雪を融かします。

## 注意)水溜め・排水の方法

- 融雪中は、燃焼缶の冷却と融雪水位を保つため、排水栓(レバー)を下げて排水口を必ず『閉』状態にして下さい。規定水位以上の融雪水は越流口から越流して排水ホースへ流れ出ます。
- 融雪終了後は排水栓(レバー)を上げて排水口を『開』にして融雪槽内の融雪水を排水して下さい。



1. 排水栓（レバー）を下げた状態で排水口がきちんと閉まっている事を確認して下さい。



使用時：レバー下げ

排水栓（レバー）

※融雪槽内に融雪水が規定水位以上溜ると、越流口より排水されます。



**注意**

排水栓（レバー）を下げないで使用しますと、  
燃烧缶の熱変形損傷の原因となります。

2. 融雪槽内に雪を投入して下さい。

3. 運転スイッチを『運転』側にあげて下さい。

運転スイッチ  
運転(上向き)



4. 運転スイッチを「運転」側にあげると同時にスコップ又はスノーダンプ等で雪を間断なく投入して下さい。

- 除雪した雪を本体横にまとめ、連続して融雪する方が、経済的です。
- 乗せた雪は空洞を潰しながら融雪して下さい。
- 排水口・ホースの排水目詰まりにご注意下さい。



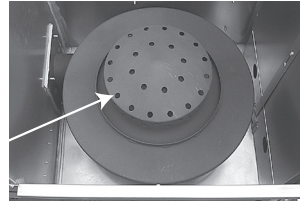
※投雪スロープは、  
オプション品(別売)  
となります。



**注意**

燃烧缶の上部や側面に雪がないまま運転すると燃烧缶損傷の原因となります。

雪を乗せる際は、排気ガイドの排気口を完全に塞がないようご注意ください。不完全燃焼となり、『不着火』ランプが点灯し停止する場合があります。



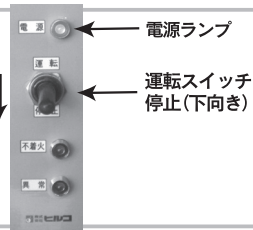
排気口

➡ P16参照

ご使用時に、雪が無い状態で連続燃焼すると『異常』ランプが点灯し、燃焼が止まる場合があります。➡ P16参照

**5. 融雪を終了する場合は、運転スイッチを『停止』側にして下さい。**

〔燃烧缶の上に雪がなくなった時点で運転スイッチを止めてOKです。あとは余熱で雪が融けて水になるまで待って下さい。〕

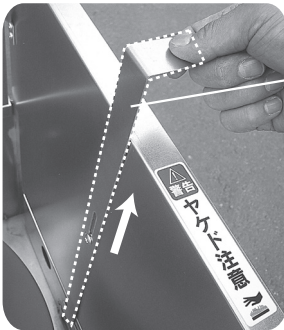


電源ランプ

運転スイッチ停止(下向き)

**6. 融雪終了後の収納は、必ず本体・燃烧缶が冷えるのを待ってから、以下の通り行って下さい。**

- (1) 運転スイッチが停止状態である事を確認して下さい。凍結防止のために排水口部の排水栓(レバー)を上げ、融雪槽内の水を抜いて下さい。➡ P20参照



使用後排水時：レバー上げ

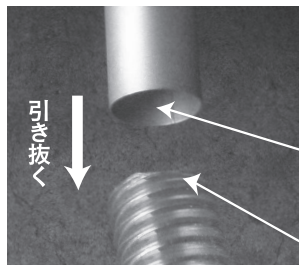
排水栓(レバー)

※本体を移動する場合も融雪槽内の水を抜くと、移動が容易になります。

## 操作・融雪方法

- (2) 排水ホースを取り外して下さい。

注意：排水ホースを接続したままにしているとホース内の水が凍結し、次の融雪作業時に排水不良からバーナーが浸水し、着火不能・故障となる場合があります。

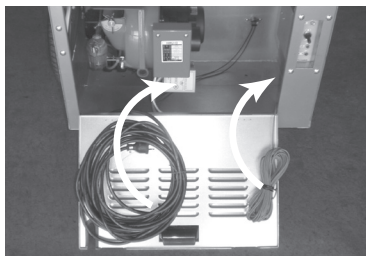


排水ホース取付口

排水ホース

注意：排水ホースはビニール製です。熱くなった燃烧缶等に接触させると破損しますので、ご注意ください。

- (3) 場所を移動する場合は電源ケーブルとアース線を取り外し、前扉を開けてバーナー室内に収納して下さい。収納後、前扉をしっかり閉めて下さい。



- (4) 雪上で移動する場合は、取っ手を持ち上げて、本体を手前に引っ張るようにして下さい。



持ち上げて、手前に引く

(5) 本機の取っ手を折り曲げ収納して下さい。

別売の収納カバーをかけ保管する際は必ず本体・燃焼缶が冷えたことを確認のうえ、ご使用下さい。

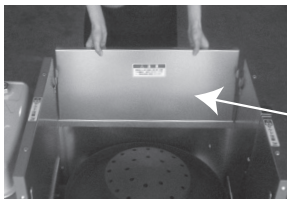


※収納カバー(別売)

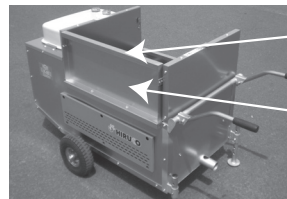
## 投雪方向を変える場合

投雪パネルは、取付位置を変更できます。

本体の後側より投雪を行う場合、投雪パネルを後側から前側へ付け替えてご使用下さい。



後側からの  
取り外し



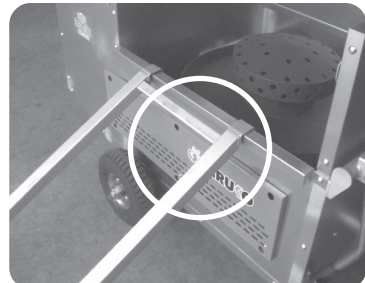
投雪パネル

前側への  
取り付け

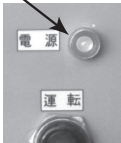
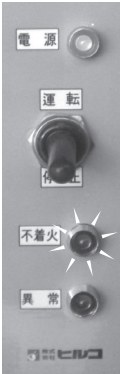



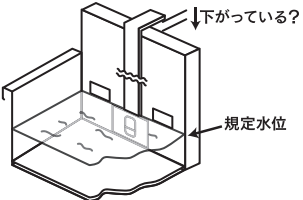
## 投雪スロープをご使用の場合

本体に投雪スロープをかけて下さい。投雪スロープは融雪室の中心位置になるようにし、端部を融雪室枠にしっかりとめ込んで下さい。

※投雪スロープは、オプション品(別売)となります。





ランプの状態	原因
<p>『電源』ランプが消えている。</p> 	<p>電源ケーブルは正しく差し込まれていますか？</p> <p>漏電ブレーカーはオンになっていますか？</p>
<p>『不着火』ランプが点灯している。</p> 	<p>着火・燃焼の失敗が原因です。</p> <p>・灯油切れを起こしていませんか？</p> <p>・灯油コックはOPENになっていますか？</p> <p>・オイルストレーナー下部の透明カップに灯油がありますか？</p>  <p>・融雪室に雪を詰め込みすぎではありませんか？</p>
<p>『異常』ランプが点灯している。</p> 	<p>空焚き防止装置が作動しています。</p> <p>雪が少なくなって融雪槽が過熱していませんか？</p> <p>融雪槽内の雪(写真)が塊って、燃焼缶とバーナー室の壁との間に空洞が出来ていませんか？</p>  <p>融雪槽内の水が規定水位までありますか？排水栓(レバー)は、きちんと下がっていますか？</p> 

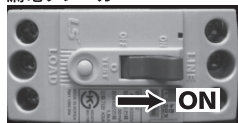


処置方法

電源ケーブルを正しくコンセントに差し込んで下さい。

前扉を開けて、左側面上部にある漏電ブレーカーのレバーを手前に倒して「OFF」にしてから、再度レバーを奥側に倒して「ON」して下さい。

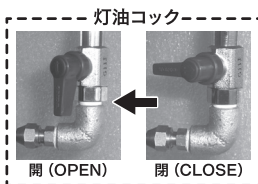
漏電ブレーカー



灯油残量を確認し、スイッチを『停止』にして給油を行って下さい。

前扉を開けて、右上の灯油コックを開『OPEN』して下さい。

灯油が無い場合は、P22の手順でエア抜きを行って下さい。



不着火のリセット

スイッチを「運転」にして、前扉を開けてバーナー本体右下のバーコンリレーの赤丸のRESETボタンを押して下さい。ランプが消灯して自動的に運転が開始されます。

排気不良となって燃焼が停止した可能性があります。いったん雪を取り出して下さい。

注)バーナーリセットは多数回行わないで下さい。着火動作により、燃焼缶の中に未燃灯油が溜まり過剰燃焼となることがあります。

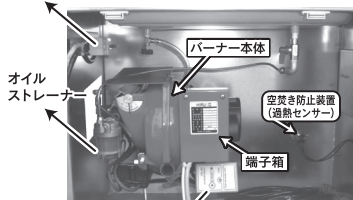
スイッチを『停止』にして、融雪槽が冷えるまで10～20分程度待つて下さい。

空洞により空焚き防止装置が作動しやすくなります。雪を突抜いて落として下さい。

排水栓をきちんと下げて円形の排水口が閉まっているか確認して下さい。

冷却後、スイッチを『停止』して下さい。  
↓  
『運転』して下さい。

漏電ブレーカー



バーコンリレー





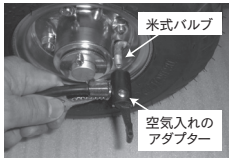
上記処置を実施しても現象・状態が改善されない場合はお買い求めの販売店または株式会社ヒルコへご連絡下さい。

注)融雪水が無い状態で運転を続けると、燃焼缶が異常過熱して底が熱変形する原因となる場合があります。

## ■ ■ こんなときには……

現 象	融雪機の状態	原因・処置方法
油の臭い、その他の異臭がする。	運転前・運転中	<p>直ちに運転を取り止め、販売店にご連絡下さい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>サービスマンがお伺いしての修理に関しましては状況により、有料となる場合がございます。あらかじめご了承下さい。</p> </div>
融雪水または槽内に油が見られる。		
排気口からススがでる。 または融雪水・槽内がススで黒くなる。	運転中	
排気口から炎がでる。		
バーナーから爆発音がする。		
バーナー室から異常音がする。		
排気口から煙が出る。		
排水の流れが悪い。 水位が上がってくる。	排水口にゴミが詰まっている。	・運転を停止し、ゴミを取り除いてから再度運転を行って下さい。
	ホースが凍結している。	・ホースの凍結部を解氷し、再度運転を行って下さい。

# 点検方法・お手入れ方法

時 期	点検・お手入れ項目	お手入れ方法
シーズンはじめ	本体・燃焼缶等の腐食	本体・燃焼缶等に腐食による穴および亀裂が生じていないか確認して下さい。 それらが発見された場合は使用を取り止め、販売店にご連絡下さい。
	灯油タンク内の水抜き	灯油タンクとバーナーのストレーナに水が溜まっていないかを点検して下さい。 水が溜まっている場合P20の手順に従って水抜きを行って下さい。
ご使用毎	タイヤの空気圧確認	<p>・タイヤの空気がへっていないか確認して下さい。 空気圧：216kPa (2.2kgf/cm<sup>2</sup>) ~284kPa(2.9kgf/cm<sup>2</sup>)</p>  <p>・空気の入れ方 空気圧計がついている『空気入れ』を使用して、写真のように米式バルブ用アダプターで、タイヤに空気をいれて下さい。 基準空気圧：255kPa (2.6kgf/cm<sup>2</sup>) 最大空気圧：294kPa (3.0kgf/cm<sup>2</sup>)</p> <p>空気入れアダプター</p>  
	油漏れ・油のにじみ	本体前面バーナー室扉を開け、送油経路に油漏れ、油のにじみなどがいないか点検して下さい。 油漏れが発見された場合は使用を取り止め、販売店にご連絡下さい。
	吸気口・排気口	吸気口・排気口が異物、ゴミ等で塞がれていないか点検して下さい。 塞がれている場合は不完全燃焼の原因となりますので、異物・ゴミを取り除いてからご使用下さい。
	排水口・越流口	排水口が異物、ゴミ等で塞がれていないか点検して下さい。 塞がれている場合は不完全燃焼の原因となりますので、異物・ゴミを取り除いてからご使用下さい。
シーズン終了後	清掃	乾いた布等で汚れを拭き取ります。特に融雪槽内の水気、汚れはきれいに拭き取って下さい。

## 点検方法・お手入れ方法

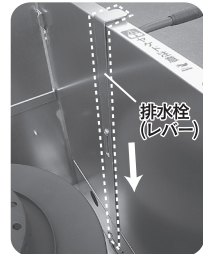
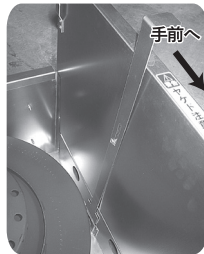
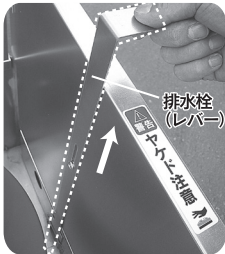
シーズン終了時には、融雪機のお手入れを以下のように行って下さい。



**警告**

必ず融雪機が冷えた状態で行って下さい。  
火傷等の事故が発生する場合があります。

### 融雪槽内の水抜き



1. 排水口部の排水栓(レバー)を上げ、融雪槽内の水を抜いて下さい。

2. 排水栓(レバー)は最上部まで引き上げ少し手前に引くと固定することができます。

3. 水が全て出た状態で排水栓(レバー)を下げて下さい。

※融雪槽内の錆防止に効果的ですのでシーズン後には必ず、実施して下さい。

### 灯油タンク内の水抜き

バーナー室



1. 左写真のようにペットボトルを用意して、灯油タンク下部の水抜きコックに繋がっているチューブをペットボトルに差し込みます。

2. 水抜きコックを少し左に回して、灯油タンク下部に溜まっている水を抜いて下さい。

注) 灯油は、水の上面に分離して溜まりますので注意して見て下さい。

3. 水抜き後は、水抜きコックを右に回して締めて下さい。



**警告**

水抜きの際、灯油をこぼすとアスファルト等の路盤を損傷する場合があります。



**警告**

水抜きを実施しないとタンク内にサビ等が発生する場合があります、タンクの寿命に影響を与える場合があります。

## 定期点検の実施時期

1年に一度、専門の技術者による定期点検を受けて下さい。

定期点検は、専門の技術者により本体及び各部品の状態、バーナー及び電装部品、安全装置の点検、確認、運転時間の経過により消耗劣化しやすい部品等の点検診断を行い、必要な調整・修理・不良部品の交換などを行うものです。本機を安全にしかも長期間快適にご使用いただくために実施されることをおすすめします。

定期点検の申し込みは、お買い求めになった販売店におこなって下さい。

定期点検の費用、定期点検の診断結果必要となる修理及び部品の交換等についての処置内容及び費用等については、その都度お客さまにご相談いたします。

なお、定期点検の内容及び点検項目の詳細は下記の通りです。

定期点検の内容	項 目
○燃焼部バーナー室まわりの点検確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オイルストレーナーの点検、清掃</li> <li>・電極・ノズル・火炎監視装置(CDS)等の点検</li> <li>・バーコンリレー・端子箱内等の電気関係の点検</li> <li>・各センサー等の動作テスト</li> <li>・送風機・ギャポンプ等の点検</li> </ul>
○融雪室内の清掃・整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排水口のゴミ清掃及び点検</li> <li>・燃焼缶内の点検及び排気口の点検</li> <li>・融雪室底部のゴミ清掃及び点検</li> </ul>
○操作パネルの運転動作の点検確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メインスイッチの動作テスト</li> <li>・リセット類の動作テスト</li> <li>・その他</li> </ul>

## 灯油切れトラブル時のエア（空気）抜き方法

運転作業中に灯油切れが起きた場合、送油経路へ空気が混入し送油異常が発生することがあります。

こんな時には…16頁の“燃焼中にバーナーが停止する。→「不着火ランプ」が点灯している”欄の処置を実施しても現象・状態が改善されない場合は、下記の手順にて作業を行って下さい。

作業を実施する前に……次の工具等を準備して下さい。

・プラスドライバー ・雑巾(布) ・空き缶などの灯油受け皿



“ご使用の前に”の給油方法に従い灯油を補充のうえ、下記の手順に従い、エア抜き作業を行って下さい。

### オイルストレーナーのエア抜き作業手順

1. 運転スイッチを「停止」にして下さい。
2. 融雪機の前扉を開けて「オイルストレーナー」を確認します。
3. オイルストレーナー上部の「ねじ」をプラスドライバーで少しずつ左回りに緩めます。
4. 緩めたねじの部分より「空気」が抜ける音がするのを確認します。
5. 緩めたねじの隙間から徐々に「灯油」がにじんでくるのを確認します。
6. オイルストレーナーの上部の「ねじ」を右回りに締めます。  
このとき、「ねじ」が最後まで締まっている事を必ず確認して下さい。
7. 雑巾(布)にて、オイルストレーナー部ににじんだ灯油やこぼれた灯油を十分に拭き取って下さい。

※事前にオイルストレーナーの下に、雑巾(布)を敷いておくことをお勧めいたします。

これでオイルストレーナーのエア抜きが終了しました。

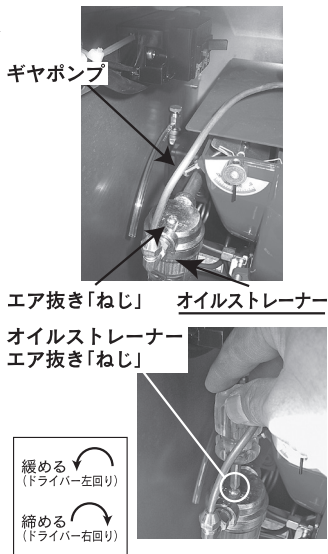
不着火のリセットを行って着火を確認して下さい。

オイルストレーナーのエア抜き作業が不十分のため、再運転においても「不着火ランプ」が点灯して燃焼しないことがあります。

この場合、上記作業を2～3度繰り返し実施して下さい。

繰り返し作業を実施しても改善されない場合は、23頁の

“ギャポンプのエア抜き作業手順”に従って作業を行って下さい。

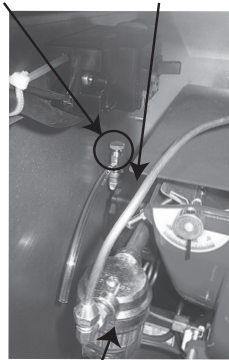


**オイルストレナーのエア抜き作業を実施しても改善されない場合は、以下の作業を行って下さい。**

## ギャポンプのエア抜き作業手順

1. 運転スイッチを「停止」にして下さい。
2. 融雪機の前扉を開けて「ギャポンプ」を確認します。
3. 外部点検口からギャポンプの「透明ホース付きのつまみ」を左回りに緩めます。
4. 運転スイッチを「停止」→「運転」にして下さい。
5. 「バーナーリセット」ボタンを一度押して下さい。  
・バーナーリセットボタンはバーナー室内、バーコンリレー部のボタンです。
6. 緩めたねじの透明ホースの先から、空気が十分に抜けて灯油がでてくるのを確認します。  
注意：事前に空き缶等の受け皿を準備し、透明ホースの先から吹き出る灯油を受けて下さい。引火の恐れがありますので、火気等には十分注意のうえ、作業を行って下さい。

ギャポンプ  
エア抜き「つまみ」      ギャポンプ

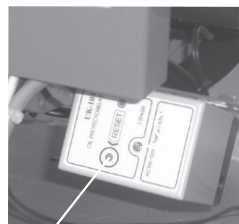


オイルストレナー

7. このとき、バーナーが着火動作を開始します。  
・「カチッカチツ」と音がしますが異常ではありません。
8. 緩めた「透明ホース付きのつまみ」を、右回りに締めます。
9. ねじを締めている途中、バーナーが着火し燃焼を開始します。  
・着火燃焼後、つまみを締める動作が遅い場合は、燃焼が停止する場合があります。  
・つまみを十分に締め切る間に、燃焼が停止した場合は、上記手順の1.より再度作業を行って下さい。
10. バーナーが着火し、燃焼が継続することを確認して下さい。
11. つまみが十分に締まっていることを確認して下さい。
12. 雑巾（布）にて、透明ホースの先からこぼれた灯油を十分に拭き取って下さい。



**これで、ギャポンプのエア抜きが終了しました。  
再度、運転操作を行い着火を確認して下さい。**



バーナーリセットボタン

**上記作業においても、現象・状態が改善されない場合は、お買い求めの販売店にご連絡下さい。**



## 製品仕様

### 仕 様

形 式	HR-1400-275G
種 類	移動式融雪機
融 雪 熱 源	灯油バーナー
使 用 燃 料	JIS1号 白灯油
排 水 方 式	自然排水
燃 料 消 費 量	10.4 $\frac{\text{リットル}}{\text{h}}$
灯油タンク容量	23リットル
発 熱 量	99kw (85,800kcal/h) (灯油発熱量8,250kcal/ $\frac{\text{リットル}}{\text{h}}$ )
点 火 方 式	高圧放電方式
最大融雪効率	96%
最大融雪量	1,000kg/h
定格消費電力	約245W(点火時), 約220W(燃焼時)
機 体 寸 法	全長 1,190mm 全幅 830mm 全高 820mm(突出物除く)
融雪槽内寸法	高さ 400mm 奥行 600mm 長さ 700mm
投 雪 高 さ	540mm
重 量	110kg(乾燥重量)
電 源	A C(単相) 100V 50Hz
騒音(雪投入時)	75dB以下
安 全 装 置	空焚き防止装置、火災監視装置、漏電監視装置(漏電ブレーカ:15mA、アース線)
付 属 品	排水ホース(3m)、取扱説明書・保証書(1部)

- 製品のアフターサービスについては、お買い上げの販売店または、(株)ヒルコにお問い合わせ下さい。

— お買い上げの販売店 —

製造元



**株式会社ヒルコ**

本 社 札幌市白石区米里3条2丁目5番6号米里北地区工業団地内  
〈営業所〉

旭川支店 旭川市旭町2条19丁目135番66

青森営業所 青森市大字宮田字玉水117-3

お客さまご相談ダイヤル  
フリーダイヤル **0120-622115**  
受付時間：9:00～17:00